

学園の進む道

長坂 悦敬

学校法人甲南学園理事長

甲南学園の歴史は、平生鈇三郎が1919年に開校した甲南中学校から始まる。平生鈇三郎は、東京海上保険や川崎造船所など実業界で活躍、神戸に甲南幼稚園・小学校、甲南病院を設立、甲南女子学園設立にも協力し、甲南四法人の礎を築いたが、1945年に亡くなるひと月前までの32年にわたり、ほぼ毎日日記を書き綴っている。そこには、政治・経済・教育・社会など、およそ人間に関わる事象について豊富な見識がふんだんに記されている。

甲南学園100周年となる2019年、「平生鈇三郎日記」全18巻の翻刻が完成した。その平生日記に、1918年から約3年間にわたりスペイン風邪が大流行し、日本でも約40万人の方がなくなることが記載されている。また、1938年の阪神大水害により、校内が土砂・浸水等の被害をうけ、全校生徒らが復興奉仕作業に従事、岡本地区水害避難者救護のため校舎を開放したことも綴られている。1995

年には、阪神・淡路大震災がおこり、本学でも大学院生、学生、生徒、同窓生ら37名が犠牲者となる大惨事となった。そしてスペイン風邪から100年が経過した今、コロナ禍が世界中に大きな影響を与えている。クルチユウス・ルーフスの「歴史は繰り返す」という言葉があるが、平生鈇三郎は歴史から学び「常二備へヨ」という言葉を残した。予期せず起きるトラブルに備え、日頃から生きていくための知恵や技術、倫理観を身に付けておくことが大切との教えである。

平生鈇三郎は、人生のモットーとして「正志く強く朗らかに」を掲げた。たとえ逆境にあるときでも、正義感を持ち、強い意志で行動し、明るく快活に過ごせば、毎日が楽しくうまくいくものであるというこの教えは、甲南学園の教職員、学生、生徒の行動規範の支柱になっている。加えて、平生は「共働互助」を進めた。これは、社会では立場が違っても一緒に働き助け合わなくてはいけない、そのためにはお互いを尊重し力を合わせて生き

ていくことが理想の社会をつくることにつながるという教えであり、学園づくりの土台となる考え方である。

「常二備へヨ」、「正志く強く朗らかに」、「共働互助」と平生夙三郎の残した言葉を連ねると「平生フィロソフィー」（平生の人生全体を貫く基本的な考え方）がみえてくる。理念主義と現実主義の両立、論理と共感の織りなし力によって学園づくりを進めていくべきとの平生の声が聞こえてくる。

甲南学園は、常に変わらず、人格の修養と健康の増進を重んじ、個性を尊重して各人の天賦の才能を伸張させ、「大局ノ打算ヲ誤ラザル志厚キ」人物を育成し、「正志く強く朗らかに」人類社会に貢献する、という平生の理念を実現すべく、「正直、誠意、公平」は言うまでもなく「熱血」とまで表現する「知力、胆力、勇氣」そして「忍耐」「共働互助」の精神を有した人物を育てるために、我々は平生が志した「人物教育」を徹底的に志向し現実の

場に展^{ひら}げて示しつづけていきたいと冊子「甲南学園100年のあゆみ」の中で宣言した。

甲南学園の個人個人の天賦の特性を引き出すという「人物教育」がいわゆる「人間として人間らしい人間をつくる」という単純明快なことながら、環境が大きく変化し錯綜する中で、これをどのようなものとして実現していくか、「平生フィロソフィー」を託されたすべての甲南人にとっての一大テーマである。

甲南新世紀において改めて学園方針を定め、「甲南学園中期計画（2020～2024）」を立案、決定、公開し、2021年に大学・高等学校・中学校のビジョン・アクションプランを更新している。「平生フィロソフィー」のもと、①「人物教育率先」の革新的進化をはかり、そして②世界に通用する「KONANクオリティ」を追求しつつ、③卒業生や地域・社会と朗らかに「つながる学園」を実現できるように、「正志く強く朗らかに」日々精進していきたいと考えている。